社会教育

青少年・婦人・壮年・高令者を対象に 各層の事業を計画

昭和四十七年度の社会教育事業もすでに二ケ月が経過しました。今年度は、子ども会の結成、若年婦人、壮年男子の学級、講座の開設、文化財保護条例の設置などを重点に子どもから高令者に至る社会教育事業を計画いたしました。

新しい公民館の完成によって、施設々備が充実され、会議や集会、そして学習活動にそれぞれ大きな成果をあげることができました。

今年度の社会教育は、①各種学級、講座の内容充実。②地域の指導者の発見と育成。③各機関団体相互の連携による社会教育推進。④文化財保護の基礎体制の整備。⑤自主的活動グループ育成。⑥公民館図書の充実などを重点施策とした社会教育推進体制の整備拡充をはかつていくほかに住民の主体的な地域活動、学習活動ができる場の確保と提供を積極的に行う方針であります。

おもな重点事業として次のものがあります。

地域子ども会組織の育成

「子どもの健全育成はすぐも会から」といわれるように最近とみに子ども会組織が重視されています。

本村では、昭和四十三年から各学区に青少年育成会が組織され、活発な活動をしていますが、子どもたちが自らすすんで活動できる組織がありません。

そこで各地域の育成会組織を基盤に一、二の地区を指定して子ども会組織の結成とその促進をはかろうというものです。

子どもは、子どもの遊びを通して仲間づくりや社会の一員として必要な知識、技能、態度を学んでいくものです。従つて、子どもの遊びの特徴をとらえ、健全な仲間づくりをすすめ、心身の成長発達に大切な活動を促進助長する必要があります。

子ども会の構成員には、子どもたちが主体で自主的な運営を必要としますが、未熟な子どもの集まりであるのでその方向を見定めてやる指導者と物質的、精神的な援助を側面からさしのべてやる育成者づまり地域のおとなの手が必要であります。

若年婦人、壮年男子を対象に学級講座の開設

社会構造や国民生活の急激な変化によつて、国民ひとりひとりは、その生涯の各時期に応じて新しい生活課題や学習要求をもつにいたり、あらゆる年令階層を対象にした機会と場を豊富に提供する社会教育への期待が大きくなつてきました。

しかし、いままでの社会教育事業は、青年、婦人を対象したものが多く、若年婦人、壮年男子の参加する機会がほとんどありませんでした。

そこで若年婦人、壮年男子を対象とした学級、講座を開設して、社会教育活動に参加する機会を確保するとともに地域の指導者として、また子どもの育成者として学習され活躍されることを期待したいものです。

文化財保護条例の設置

最近、土地開発、家屋の造改築や公害などによつて、天然記念物や遺跡、民族資料等の文化財遺産がき損、廃棄、枯死されようとしています。

現に本村においても小杉、平山の土師器、須恵器、駒込の祖父、弥生土器などの遺跡が田圃化されてしまいました横越館の腰（城館跡）も田圃化され、現在では新潟市の水道浄水場が建設されようとしています。

また、家屋の新築、改築や生活様式の変化によつて民族資料がいんめつされてきています。

先人の文化遺産を保存記録することが、今日私たちに課せられた使命であります。

そこで文化財保護条例、文化財調査委員会の設置をしてその調査、集収、保存をはかる必要があります。

主な事業計画は

◎青少年教育関係
(1)青年教室
(2)地域子ども会組織の結成
(3)婚前講座開設（青年男女を対象）（一～二区を指定）

◎婦人教育関係
(1)木津、小杉学区に婦人学級開設、公民館に若妻学級を開設
(2)洋裁講座

◎成人教育関係
(1)成人講座
(2)高令者大学
(3)横越沢海学区に家庭教育学級を開設

◎文化財と文化振興関係
(1)文化財保護条例設置
(2)文化祭郷土芸能大会

◎社会体育関係
(1)小杉小学校体育施設開放
(2)野球、水泳など各種スポーツ大会開催、スポーツ教室の開設

◎その他の事業
(1)成人式
(2)各機関連絡会議
(3)青少年、婦人、PTA、芸術、文化等の指導者研修会

老後の生きがいを求め 高令者大学はじまる

公民館では、今年も六十五才以上を対象に高令者大学を開設しました。

高令者大学は、高令者にふさわしい社会的な能力を養いできるだけ長く自主的生活を続け、世代の隔絶の幅をせばめ、生きがいのある生涯を全うすることを主眼においています。

学習内容は、趣味と生活、現代の子どもたち、村政と老人福祉、健康と体育レク、修学旅行、横越村の農業と将来、老人の健康管理、宗教について、横越村の昔話し、老人の生きがいなど三十五時間、毎月一回行われます。

今年度の大学生は七十五名で、大字横越以外は タクシーで送迎しています。

今日、高令者は多くの困難な問題をかかえています。

平均寿命の著しい伸長によつて高令者人口の増加、出生児数の減少によつて人口の老令化現象、核家族に伴う老人世帯の増加などの問題が生じてきています。しかも子どもの扶養力にあまり期待できません。高令者が孤独からどう解放され、老後の積極的な生きがいをどのように見い出していくかが重要な課題であります。

また、医療保障や老人福祉老人就労対策など、積極的な福祉対策がのぞまれるところです。

高令者大学開講式

阿賀河川敷に 野球場を建設

連青の汗の結晶

横越村連合青年団は、焼山地区の阿賀の川、河川敷を開こんして野球場の建設にとり組んでいます。

場所は、横雲橋上流一、三〇〇メートルの古川排口（旧阿賀の川）水門附近で、広大な茅地帯。そこに右翼一〇〇メートル左翼一〇〇メートルの公式球場に匹敵する広さのもの。

建設の動機は、本村には、野外スポーツ活動をする場所は、横越中学校グランドだけであるため、中学校のクラブ活動や他団体の利用が多く、青年団のスポーツ活動が思うようにできないことからで、昨年、建設省の許可を得、焼山青年団と連青の手で測量、茅の刈りとり、焼きはらいなどを行つてきたが、資金等の関係で完成までに至らなかつた。

そこで、連青ではこのほど村当局に予算措置を要請し、開こんをはじめたもので、その完成が期待されます。

佐藤正一郎連青団長の話

河川敷外地を利用した野外スポーツ施設は、長岡市をはじめ、各地にできている。

洪水や維持管理に問題点はあるが、村の各地域にこうした野外スポーツ施設や、子どもの遊び場を確保すべきである。村をはじめ、地域の住民からご理解とご協力をお願いしたい。

しつけ方言

〝エケドショー、コイテケツケヤガツテ、ドゴ、ホーツキアルイテイタ、ウナノ、ヤルコト、アトサンジヨツバライラネカ〟

過保護のご時世、今はこのような叱咤した言葉は聞かない。標準語にしてみてはいかがでしようか。

明るい農村 それは みんなの心から

一日20分で 読書の楽しみを味わおう

本を読む力をもちながら、本を読む習慣をもたないために読書の楽しみを味わいないものが少くありません。

最近、各地に「母と子の20分間読書」が静かなブームをよんでいます。

一日わずか20分間を読書することでありますが、20分といえば、ムダ話しやテレビを見ているとアッという間にすぎてしまう時間です。

しかし、バカにならないもので、一ケ月続ければ六百分で十時間となります。一ケ月で五、六冊の本が読めることになります。

問題は本を沢山読むことでなく、10分や20分程度の短い時間でも毎日たび重ねていけばいつしか習慣がつくものです。ちようどした時間をムダにせず、読書の習慣や技術を身につけることができ、読書の楽しみを味うことができます。

全国簡易保険作文募集

募集〆切り	6月30日
資格	小学生5.6年、中学生1.2.3年
課題	①簡易保険について ②自由題
原稿	2,000字以内
応募受付け	横越郵便局

新刊図書紹介

○ダムに生きた二十八年　朝日新聞特派記者団
○日本史探訪　一～三集　松本清張外
○新平家物語　全巻　吉川英治
○見るなの花ざしき　小沢誠一
○子ども日本風土記　日本作文の会
○美しさと哀しみと　川端康成
○顔　丹波文雄

公民館では、親と子の読書を普及するために、図書予算を増額し、幼児向けの図書を沢山とりそろえましたので、ご利用ください。

編輯後記

農繁期をむかえ、猫の手も借りたいほどの忙がしさ、ご精励をおよろこび申し上げます。

このほど〝村だより〟と〝公民館報〟が一本化され、新しく「広報よこごし」が誕生し、毎月一回発行することになりました。

この広報が華なる「しらしめる」ことではなく、「住民の声をきく広報」として、住民と真摯対話の中で進め、充実したものにしたいと願りきつています。

広報についてご意見をお聞せください。

ぼくの手
きみの手
その手で
あすの明るい
村づくり